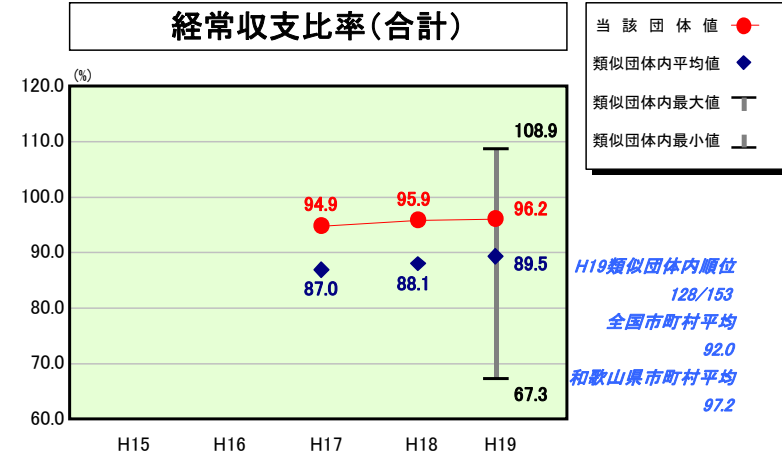


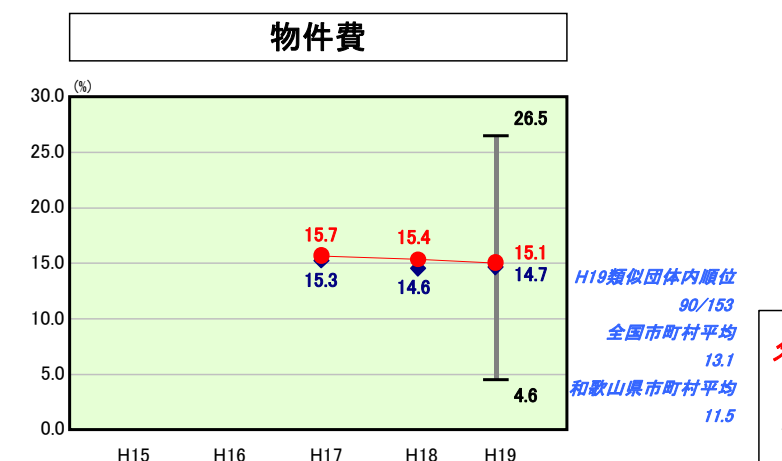
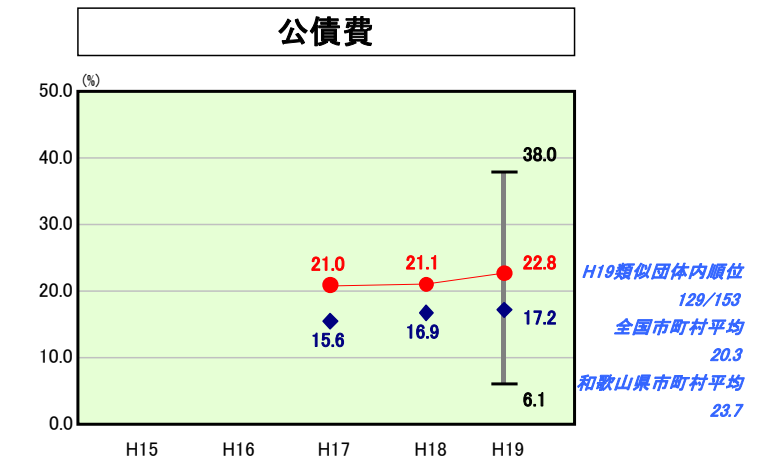
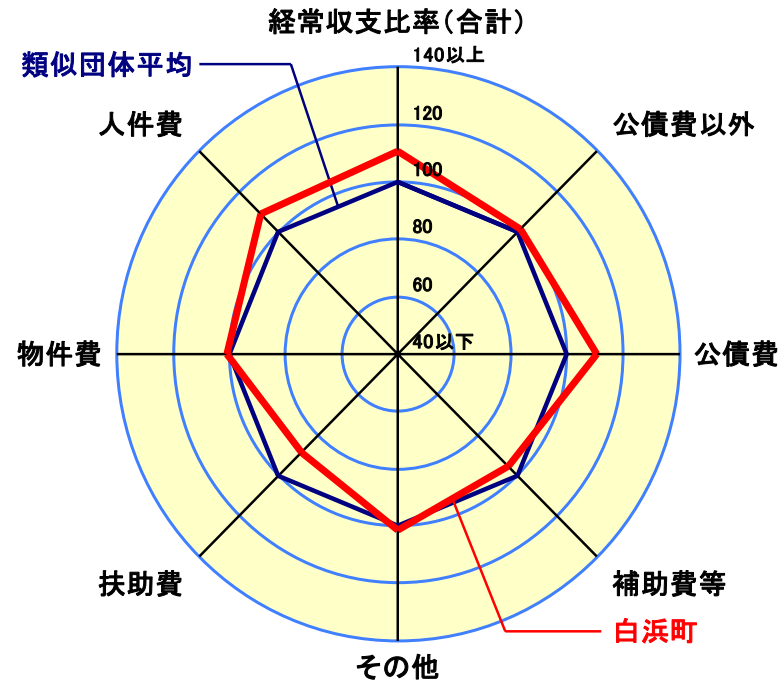
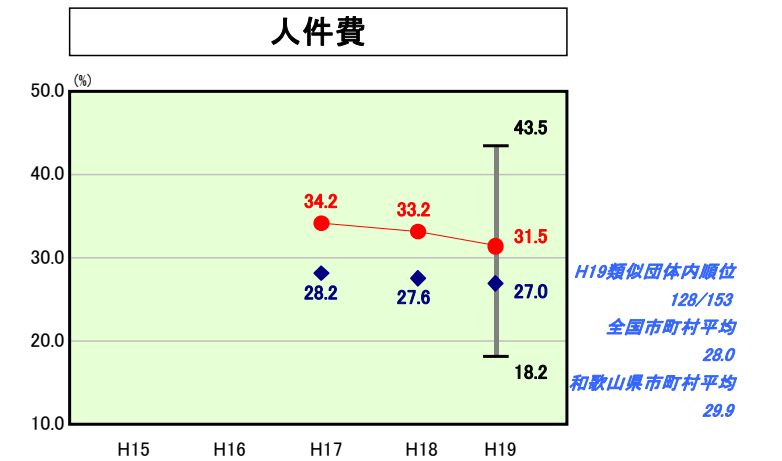
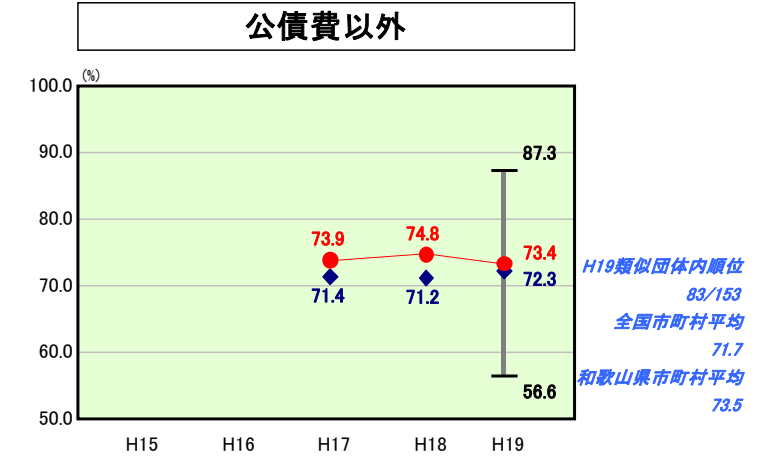
歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

和歌山県 白浜町

経常収支比率の分析



人口	23,998人(H20.3.31現在)
面積	201.04 km ²
歳入総額	11,843,934千円
歳出総額	11,613,960千円
実質収支	218,418千円



- ※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【経常収支比率】
 年々数値が上昇し、96.2%と高い数値になっている。主な要因として公債費の充当一般財源が増加したこと、また特別会計への赤字補填的な繰出金が多額になってきていることがあげられる。今後、経常一般財源の増加を図ることは重要であるが、地方税収等の増加を求めるのは厳しい状況であり、人件費をはじめとする経常経費のさらなる削減に取り組む。

【人件費及び人件費に準ずる費用の分析】
 人口あたりの職員数が類似団体より多くなっており、経常収支比率の人件費の割合も高い数値となっている。これは、当町が年間300万人の観光客が訪れる『観光の町』であることから、施設が多い等、人口規模以上に様々な行政需要に対応するために、職員数が多くなっていることが要因である。またごみ処理業務や消防業務も当町単独でおこなっており、特に消防は隣町の消防業務も受託していることから人件費の比率が高くなっている。今後は、白浜町職員適正化計画に基づき、事務事業の見直しや庁内組織の再編成、民間委託の推進等を進め、適正な定員管理に努め、人件費を抑制を図っていく。

【公債費及び公債費に準ずる費用の分析】
 人口1人あたりの決算額が、類似団体平均21,175円に対し、33,739円と上回っている。これは、空港建設に伴う清掃センター、斎場、最終処分場の建築事業の起債や、道路橋梁整備事業、また健康交流拠点施設の未償還額が大きいためである。また一部事務組合の公債費の負担金も多くなっている。

【普通建設事業費】
 17年度、18年度はほぼ類似団体平均数値と同じで推移していたが、19年度の決算額は大きく増加した。これは、西富田小学校建設事業やブロードバンド基盤整備事業等の大型建設事業の実施によるものである。今後も消防庁舎建設や小中学校の耐震化事業等の大型事業が計画されているが、第一次白浜町長期総合計画に基づき、事業の緊急性、費用対効果などを十分に考慮し、また可能な限り事業費の縮小を図りながら事業実施をしていく。

